

支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和6年1月 15日

事業実施地区	篠ノ井地区
事業名	篠ノ井史跡・名所巡りパンフレット校正及び増刷事業
団体名及び代表者名	(団体名) 篠ノ井歴史の会 (代表者名) 会長 宮入 正純 (連絡先) 連絡担当者 氷熊 光久 090—1767—7232

■事業概要（選考委員会の助言を含む）

<input type="checkbox"/> R3年度一冊にまとめたガイドブックを発刊した。この本は小学校で有効活用され副教材に使用されている。最新であるガイドブックと各地区のパンフレットと不整合が生じ学習用としても不都合が生じたため、3年かけて各地区のパンフレットを校正し、増版印刷し提供する。 <input type="checkbox"/> 駅構内パンフレットなど正しい資料を提供し篠ノ井の文化財を継続的な情報発する。増版により駅ラック等の展示が途切れることのないよう、補充できる。	【事業完了日】 令和6年1月15日 【総事業費】 150,000円 【補助金額】 120,000円
---	---

※活動状況や備品の表示がわかる写真・成果物等を別途添付

パンフレット印刷事業の内容（古墳、布施の戦、まちなか歴史探訪、中央地区、塩崎地区）

■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

<p>①パンフレット校正印刷（西部山麓古墳、布施の戦いの地、篠ノ井まちなか歴史探訪）を1,000部印刷し本事業の成果物を用いて小学校又は中学校の現地案内に使用していく。また、需要の高い中央地区、塩崎地区の各1,000部の増版し、今後見込まれる篠ノ井・塩崎地区を訪れる歴史探訪愛好者に備えた。</p> <p>②将来の篠ノ井や次世代を担う人材育成は、郷土の歴史を学ぶことや文化財との触れあいの機会に多くなければ故郷を愛することに繋がらないことを踏まえ、今年から来年度に渡り、小学校や中学校の生徒の見学会開催を重点のテーマとして地味ではあるが底辺拡大に努めたい。</p>
--

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■事業評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の内容		○		
事業の効果		○		
特記事項 (評価理由等)	① 最新パンフレットで案内できた。 ② パンプの数量も心配なく配布可能となった。			

■今後の取組予定

<p>① パンフレットの内容についても時代の変化に応じ校正し常に新鮮な情報に変えて行かなければならない。パンフを作成後10年経過したものもあり、常に問題がないかなどの再チェックは必要なことから関係の地元区長や学識経験者などと意見交換しての見直しや内容のリニューアルも検討の時期でもある。来年度には、増版予定の箇所から再度の校正及び見直しに着手したい。</p> <p>② 日常の様々な活動は、近い将来（4年後を想定して）の篠ノ井市誌編纂へと繋げる史資料を足がかりにして活動を深度化させていかなければならないと考えている。</p>

⑩新田の横穴式古墳 (円墳 6世紀後半)

篠ノ井岡田字上大久保

案内 県道86号線を回り、茨白山側道を通り電線入口をめざし、左手に「新田の横穴式古墳」の看板がある所を左に入り、徒歩5分の所にある。



権力者を含め何人かが葬られた墓



尾根先にある横穴式石室をもつ円墳と考えられます。両壁は石を5段に積み上げ、その上に長さ約2.9m×2.2m、厚さ0.5mの一枚石が置かれています。

横穴式石室は奥行10m、高さ3mで、奥壁は幅1.8m×高さ1.2mの一枚石が立っています。盛土を想定すると、直径約20m、高さ5mほどの円墳であったと考えられます。眼下には川中高平が広がり、眺望の素晴らしい場所にあります。築造時期は6世紀後半とみられ、首長1人だけの墓ではなく、何人かが葬られた墓と考えられています。この古墳の約100m下に同規模の古墳が1基存在していたと、昭和30年頃まで確認されています。近くには、「宴の城」といわれる大塔合戦に使われたと伝えられる山城跡がありますが、詳しくは不明です。

篠ノ井西部山麓古墳巡り概観図



- ①越将軍塚古墳 ②鶴萩古墳 ③中郷神社古墳 ④池ノ上古墳 ⑤丸山古墳群 4号墳
- ⑥飯綱社古墳 ⑦川柳将軍塚古墳 ⑧姫塚古墳 ⑨布施塚古墳 ⑩新田の横穴式古墳 ⑪海道北山古墳 ⑫腰村前方後円墳

※1 このガイドマップは、篠ノ井歴史の会「H29年古巡めぐり事業」の成果としてとりまとめたものです。
 ※2 古墳は、私有地内に存在するものもあります。事前に関係者の了解を得てから見学してください。

篠ノ井西部山麓古墳巡りガイドマップ



埋蔵文化財の宝庫 篠ノ井。
 県内で一番古い米作りが確認された石川原遺跡、卑弥呼の時代の環濠集落が発見された篠ノ井遺跡群、弥生時代に大陸や朝鮮半島から日本海ルートで運来したとされる人骨が発見された伊勢宮遺跡など、篠ノ井は埋蔵文化財の宝庫であり、大昔から人びとが生活していたことがわかります。古墳時代(3～6世紀)には、千曲川から尾川に至る篠ノ井西部山麓の標高およそ450mラインに数十もの古墳が築造されています。このガイドマップはこれら古墳群のうち代表的な古墳12か所を取り上げて紹介しています。1500年以上の昔、ここ篠ノ井に居住し、古墳を築造した人びとはどんな生活をしていたのでしょうか、マップ片手に古墳巡りを楽しみながら、想像してみてください。

⑪海道北山古墳 (墳形・古墳時代後期)

布施五明海道北山 1292

案内 布施五明のJAグリーン長野紅のホール裏ノ井跡より、県道86号線を約5分ほど登った左手、栗田園だった畑の中にある。



巨大な横穴式石室を想定させる古墳



布施五明地区を見おろす栗田園内にある。盗掘や耕作のために破壊が激しく、墳丘は全くなく、横穴式石室の一部のみ残されている。石室の側壁は厚い平石を立てて並べ、玄室と羨道があったことがわかる。

奥壁は近くの筆塚の碑石に使われており、巨大なものである。玄室の幅は2m程度あり、羨道と玄室との境は鮮明でなく、わずかに幅を狭めていることでそれとわかる。米山一政氏によれば、「更級郡において、この式の構造の古墳は、海道北山古墳1基あるのみ」という(『更級道科地方誌』第2巻)。地元では上地の字名から「三本松塚古墳」とも呼ばれている。

⑫腰村前方後円墳 (前方後円墳 6世紀前半)

篠ノ井小松原腰村 長野市指定文化財 昭和42年11月1日指定

案内 布施五明の岡田の信号を左折、市道383号線を北進、共和寺裏小松原共掛新より左折、徒歩で5分。

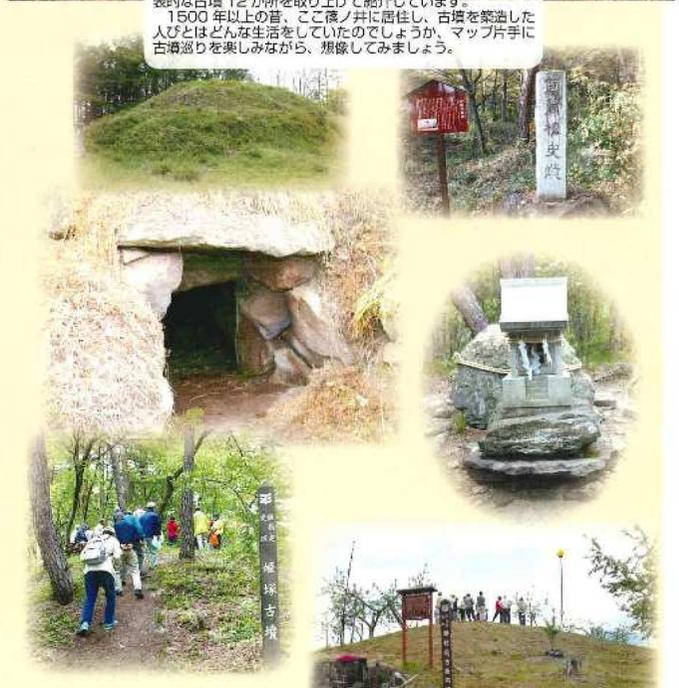


善光寺平最後の6世紀前半の前方後円墳



善光寺平の前方後円墳の消滅期を示す貴重な資料である。小松原腰村より西方約300mの山麓にある南北に走る小段丘を利用して築かれている。地形に応じて前方部を南にし、後円部を北方に置き、善光寺平を一望できる場所に築かれている。規模は山丘斜面に築かれているために、はっきりしないが、およそ全長43m、前方部幅21m、後円部径24mである。

高さは後円部が4.5m、前方部が4mであり、前方部が後円部とほぼ同じ高さであり前方後円墳としては、比較的新しい。埋葬施設などは明らかではないが、後円部頂から板石が掘り出されているというから、竪穴式石室が予想される。遺物は墳丘から6世紀前半頃の特徴を持つ円筒輪や形象埴輪の破片が採集されていて、この古墳築造時期が6世紀前半であることを示しており、墳形の特徴とも矛盾はない。



篠ノ井歴史の会

〒988-8007 長野市篠ノ井布施岡田1235 TEL026-292-0038
 協働団体：篠ノ井地区住民自治協議会・地域振興部会・長野商工会議所篠ノ井支部

第一次川中島合戦 布施の戦いとは

◆川中島合戦とは

戦国時代末期、信濃に侵攻して村上義清をはじめとする信濃の武士等を自落させた武田晴信(信玄)に対し、後援に救援を要請された越後の上杉謙信が千曲川と犀川に挟まれた川中島(当時川中島の地名はない)で5日戦い、決着がつかなかったこの戦いの総称を「川中島合戦」という。その後、川中島地方は長い争奪の末、結局武田領になった。

- 第1次の戦い 天文22年(1553) 8月 布施の戦い
- 第2次の戦い 弘治元年(1553) 7月 大塚の対陣
- 第3次の戦い 弘治3年(1557) 8月 上野原の戦い
- 第4次の戦い 永祿4年(1561) 9月 八幡原の戦い
- 第5次の戦い 永祿7年(1564) 8月 信玄塩崎城に出陣

◆第一次川中島合戦「布施の戦い」とは

信玄と謙信は天文22年(1553)8月、布施の郷(現篠ノ井駅周辺)で、最初に激突した。信玄の怒涛の侵攻に対し、謙信は5,000の兵を率いて戦いを挑んだ。この戦いは両軍共信濃衆が活躍し、中でも武田方では真田幸隆(幸村祖父)と大須賀久兵衛、越後方では高梨頼治の働きが目覚ましかった。

幸隆はこの戦いで深傷を負ったが、保科弾正正俊の槍の援護で窮地を脱した。この活躍で正俊は「槍の弾正」の尊称を得た。大須賀はこの戦いで武将首を取り、信玄から「去る癸丑八月、越後衆出張の嗣、信州布施に於いて頭(首)一つ討ち取るの条、比類なき戦功に候」の感状を得ている。(大須賀家文書)

◆布施の郷とは

布施の郷は布施本庄8カ村と布施御厨8カ村の一郷16カ村といわれている。布施本庄は石川・二ツ柳・布施五明・布施高田・御幣川・横田・会・上下布施の8村、布施御厨は小松原・岡田・右旅・入右旅・山布施・安施・水熊・山平林村とされる。

◆篠ノ井合戦まつり

篠ノ井は布施の戦いのほか、横田河原の戦い(1181年)、中先代の乱(1335年)、大塔合戦(1400年)等の古戦場であり、鎮魂と地域活性化を願って毎年7月最終土日に「合戦まつりと祇園祭」が挙行される。祭の終盤に行われる大獅子の競演の舞いは「長野市無形民俗文化財」に指定され、一見に値する。

篠ノ井の古戦場ゆかりの地



①茶臼山陣営跡(篠ノ井有旅)

茶臼山は川中島平の西側に位置し、標高730m。永祿4(1561)年の戦いで、武田信玄が本陣を布陣した地とされる。北峰と南峰があったが、地清りのため高低がなくなったという。そのため本陣跡の遺構をはっきりとみることができないが、本陣に森林火山の旗が立ち、妻女山の上杉軍を眺望したことを想像するのにも面白い。「陣址之碑」と案内板、旗塚と言われる小さな土盛りがある。



②光林寺(篠ノ井小松原)

嘉元元(1303)年、広阿大善が開基した浄土宗寺院。山号は亀見山。寺伝によると、川中島合戦の折、武田信玄が本寺に陣を張った。後に、本尊境内に信玄寄附による阿弥陀仏小像が納められ、「腹籠りの本尊」と呼ばれている。瓦に武田妻が刻まれ、信玄との縁を物語る。

慈徳造りの本堂の伽藍彫刻は、高拝の巨大な鳳凰はじめ外周の靈獣彫刻に見応えがある。堂内の牡丹彫刻の欄間、格天井には花鳥と獅子の絵が施され豪華。春は樹齢300年を越す枝垂桜がみごとである。



③耕心庵(篠ノ井布施五明)

永祿4年9月の戦いで武田方4600余人、上杉方3400余人の戦死者を数えたという。10月に信玄は高坂弾正等を引き連れて川中島平を視察、川中島を一望できる茶臼山中腹で休息したとき、眼下に戦乱で荒廃した村裏を見て心を痛めた。戦いで犠牲になった人々の菩提と、川中島に上杉軍が出陣しないことを願い高坂弾正に禪寺を建立させ、法性山甲信庵と名付けよと命じた。この寺が耕心庵である。現在は曹洞宗。



④石川城跡(篠ノ井川柳)

川柳上石川集落の西側の丘陵高台にある。城跡の北側は聖川の流れにより削り取られたため断崖となっている。東・南面は急斜面で、西側の緩斜面は二つの郭が石垣でめぐらされた要害の地である。天文年中(1532~1554)、村上義清に属する石川大和守の居城とされる。天文22(1553)年4月晴信が義清の居城葛尾城を攻めたとき、武田方についた(「高白斎記」)が、景虎が更級郡に進出したときは、上杉についたことが千野野負貞の目安に記されている。



⑤塩崎城(別名白助城)跡(篠ノ井塩崎)

応永7(1400)年の大塔合戦のとき、守護小笠原長秀は横田河原に陣を張った。しかし村上氏、高梨氏や国人等に攻められ、守護方は二手に分断され、一部は大塔の古要害へ、長秀は塩崎城に逃げ込んだ。最終的に守護方の兵は戦死、自害をとり、長秀は命からがら京都に逃げ帰ったという。本郭は東西24m、南北15mの細長い長方形。永祿7年の川中島の戦いで信玄が塩崎城によって上杉方と対峙したとき、空堀、番郭などを構築したと思われる。



⑥横田城跡と地蔵寺(篠ノ井会)

治承5(1181)年の横田河原の戦いで越後の城資瓊(平氏)が陣を置き、この戦いの後は木曾資仲が北降攻略の拠点の一つとした城。また応永7(1400)年の大塔合戦では、信濃守護小笠原長秀がこの城から出陣している。川中島の戦いでは信玄方の原大隅守がこの城を守ったという。城跡は南北160m、東西230mの堀を巡らしていた。土塁が残り、古殿稲荷が祀られている。近くの篠ノ井総合病院南側にある地蔵寺に原大隅守の墓がある。



⑦勸助宮跡(篠ノ井上組)

武田信玄に仕えた山本陽助を祀る。武田流兵法や築城を語るにはなくてはならぬ人物。川中島の戦いで最も激戦となった永祿4年の戦いで、信玄に進言した啄木戦法ははずれたため、死をもって償おうと上杉軍の中に討ち入り、北小森渡真木明神付近で62歳の生涯を閉じたという。里人たちはそこに社を建て鎮魂した。南長野運動公園建設に伴い、その南西隅の一角に社は移設された。



⑧典厩寺(篠ノ井袴洞)

永祿4(1561)年の第4次川中島合戦の激戦で武田軍の副将、武田典厩信繁は700騎の兵とともに上杉軍と激戦、惜しくも37歳で壮絶な死を遂げた。その遺骸は典厩寺に埋葬し菩提を弔った。後に海津城初代の真田信之は、典厩寺(創建1300年)を典厩寺に改名し、真田家は明治廃藩まで寺を保護された。因みに真田幸村の本名は真田信繁といひ、父昌幸は武田信繁の知性・名將に心酔して命名したという。境内には、合戦戦死者8000余名を供養した日本一大きい國魂大王(64m)を安置している。また、川中島合戦記念館があり、川中島関係資料が展示されている。

第一次川中島合戦 布施の戦いの地 篠ノ井古戦場ゆかりの地史跡マップ



布施の戦いの地碑(篠ノ井駅下車(西口) 碑名 川村龍洲宮 碑文 滝澤公男撰)



川中島の戦い絵図 上杉軍部隊を指揮する戦術の戦術が襲う(和歌山県立博物館蔵)

篠ノ井祇園祭の大獅子競演



篠ノ井歴史の会

〒288-8007 長野市篠ノ井布施高田 1285 TEL026-292-0038

協力団体: 篠ノ井地区住民自治協議会・地域振興部会・JRI東日本 篠ノ井駅/長野商工会議所篠ノ井支部



篠ノ井駅（東口を望む）

①篠ノ井駅

明治21(1888)年8月15日開業、同33(1900)年に篠ノ井線が開通、信越本線との分岐駅となり、長野県の中南信と北信を結ぶ重要駅になりました。現在は信越本線、篠ノ井線、しなの鉄道線からの乗換駅になっています。ひと駅名物は、冬季五輪の記念として建てられた雪ん子像です。



明治42年築造の萬屋2番

②萬屋商店(2番)

官崎萬平・運平兄弟は明治19(1886)年布施村に、兄は駅前通り北側に萬屋本店、弟は南側に萬屋商店を開業。本店は電話番号1番、商店は2番と呼ばれ隆盛を誇りました。2番の現存の建物は総構造りで明治42(1909)年に完成。駅前拡張に伴い駅前から曳家移転し、さらに90°回転しました。



巨大な萬屋1番の鬼瓦

③萬屋本店(1番)の鬼瓦

兄の1番の萬屋本店の大量根の鬼瓦が保存されています。敷地1000坪に蔵が11棟もあった商家本宅の大量根の鬼瓦だけあって、幅2.1m、高さ1.5m、厚み0.6mという巨大なもので、当時の隆盛が偲ばれます。



太平観音堂

④太平観音堂

米軍の指令により取壊すことになった通明小学校の奉安殿を現在地に移し、昭和22(1947)年に横田観音寺の十一面観音の二分体を本尊として篠ノ井地区の太平洋戦争戦死者約1000柱を祀っています。昭和25(1950)年に建立され拝殿は、平成17(2005)年不審火により焼失しましたが、平成19(2007)年に再建、落慶法要が営まれました。



瓦屋根と彫刻が見応えある幣川神社

⑤幣川神社

慶長年間(1596~1615)、水路開削の折、黄金の幣袋(御幣)が発見され、彫文に「八幡宮」とあったことから、この地に八幡宮を創建、明治11(1878)年社号を幣川神社と改称しました。弘化2(1845)年~嘉永2(1849)年に改築しました。平成6(1994)年、棟札が発見され、彫刻棟梁が小島村(現長野市柳原大字小島)清水与作と判明しました。



聖川の氾濫を防ぐために設けられた高土手の跡

⑥御幣川の高土手と「たて板」

上杉景勝が川中島4郡(旧更級郡・埴科郡・高井郡・水内郡)を統括していた頃、岡田川や聖川は氾濫をくり返していました。上杉家臣の清水戸右衛門は聖川を南に流し、御幣川西に高土手を築く水害対策をしました。高土手を横切る古道には村内に洪水が浸入することを防ぐために「たて板」が設置されました。



秘仏の甲冑薬師如来が珍しい宝昌寺

⑦宝昌寺(曹洞宗)

群馬県安中市の桂昌寺の月異玄鶴和尚が薬師堂に居住、当地を開拓し薬師如来を本尊に慶長12(1607)年に創建。その後3世理本和尚が新たに釈迦如来を本尊として勧請しました。秘仏の鎧着甲冑薬師如来、鬼女紅葉と平維茂の一騎打の巻絵図があり、松代藩鎌原家の贅の家紋が寺紋となっています。



全国的にも珍しい、歯の神様を祀る歯齋医殿

⑧歯齋医殿(はくさんさん)

この地に難病を行方によって癒す行者がいました。行者は、歯齋(現在の歯齋農圃)がひどく、他の人びとにはこの悩みをさせたくないと言願をたて、幾日も難難苦行をし、行人塚で生きたまま入定しました。人びとは感謝し石祠を建て「はくさんさん」としてお祀りしました。



古くからの産土神を祀る可毛羽神社

⑨可毛羽神社

口碑ではこの地方開拓の祖「可毛羽命」が開拓で心労の折、祖父の建御名方命といわれ、精気を取り戻されたことから祀ったといわれています。治承5(1181)年の横田河原の戦いで社殿を焼失、さらに川中島合戦で再び社殿・古記録を焼失。もとは諏訪大明神でしたが、明治11(1878)年現在の社号に改めました。



地蔵寺と武田信玄を守った原大隅守の墓

⑩地蔵寺と原大隅守の墓

原大隅守は永禄4(1561)年の第4次川中島合戦で中間頭として出陣、信玄を守護していました。馬上から切り下す謀信を見て主君の一大事と、馬の三途(馬の尻)を打ち、追ひました。この戦功で大隅守は会と原村を給せられました。地蔵寺にその墓といわれる史跡があります。



横田河原、大塔、川中島合戦の際に戦陣となった横田城址

⑪横田城址

治承5(1181)年に木曾義仲の旗揚げを鎮圧するため越後から大軍を率いて城氏が入城したといわれています。しかし結果は少数の木曾軍の奇策により越後軍は敗走。応永7(1400)年の大塔合戦、永禄4(1561)年の川中島合戦の時も横田城は戦陣だったといわれています。



かつての長野県簡検定所篠ノ井支所

⑫簡検定所跡

江戸中期以降明治~昭和にわたり篠ノ井は養蚕業が盛んでした。しかし繭の値段は大きく変動したため、検定組織が必要になり、県内では松本に簡検定所本所、昭和10(1935)年、篠ノ井に支所が開設されました。昭和52(1977)年に篠ノ井支所は廃止されました。跡地はしののけ公園になりました。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

篠ノ井まちなか歴史探訪

篠ノ井駅を中心とした篠ノ井の中心地には、古代からさまざまな歴史が刻まれています。こうしたまちなかに残る身近な歴史遺産を掘り起こし、先人たちの苦勞に思いを馳せ、未来のまちづくりへの礎にしてみましょう。

ガイドマップ(北コース)

北コースの説明は中面にあります。



ガイドマップ(南コース)



注意：文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL 026-292-0038

協力団体：篠ノ井地区住民自治協議会・地域振興部会/長野商工会議所篠ノ井支部/篠ノ井交流センター・公民館交流部会少年育成委員会



38 横田城址

治承5(1181)年、木曾義仲の旗揚げ鎮圧のため越後の城氏が大军を率いて入城したといわれています。しかし少数の木曾軍の奇策により越後軍は敗走。応永7(1400)年の大塔合戦、永禄4(1561)年の川中島合戦時も横田城は戦陣だったといわれています。



39 地藏寺と原大隅守の墓

原大隅守は永禄4(1561)年の川中島合戦で中間頭として信玄を守護していました。馬上から切り下す謙信を見て主君の一大事と、馬の三途(馬の尻)を打ち、追い払いました。この戦功で大隅守は会と原村を給せられました。地藏寺にお墓があります。



40 可毛羽神社

この地方開拓の祖「可毛羽命」が心労の折、祖父の建御名方命と会い元気になったことから祀ったと言われています。治承5(1181)年の横田河原の戦いで社殿焼失、川中島合戦でも再び社殿・古記録焼失。元は諏訪大明神でしたが、明治11(1878)年現在の社号に改めました。



41 十二神社

横田・会・小森など千曲川沿いの地域は、犀川から千曲川へと向かう小河川の合流域で、昔から「十二ヶ瀬」と呼ばれてきました。令和元(2019)年10月12日の台風19号による大水害もこれら河川の内水氾濫が主な原因でした。水害の被害を鎮める為に十二神社が建てられたのです。



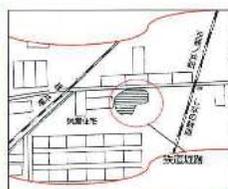
42 蘭検定所跡

江戸中期以降明治～昭和にかけて横田は養蚕業が盛んでした。蘭の値段は大きく変動したため、検定組織が必要になり、県内では松本に蘭検定所本所、昭和10(1935)年、篠ノ井に支所が開設されました。昭和52(1977)年に篠ノ井支所は廃止され、跡地はしののけ公園になりました。



43 秋葉神社

昭和9(1934)年、国道18号が敷設されると、次第に国道の周囲に家が立ち並び、国道区が誕生しました。それに伴い、火事が頻発するようになりました。そこで静岡にある火伏せの神秋葉神社を勧請し、公民館横に社祠を建立して、区の氏神として崇敬してきました。



44 鉄道堀跡

昭和区は古くから交通の要衝でした。篠ノ井線は明治33(1900)年11月に篠ノ井～西条間が開通しました。この鉄道敷設にあたり、その盛り土のために掘られた跡(鉄道堀)が数所あり、池となりました。子どもたちがライギョやフナ、カエルをとる遊び場となりました。



篠ノ井地区歴史探訪シリーズ
中央地区史跡・名所巡り

篠ノ井駅を中心に広がる中央地区には17の区があり、歴史的遺産が豊富な地域です。中世の横田河原の合戦、川中島の戦いでは主戦場となった地域です、江戸時代は塩崎から伸びる北国街道が御階川・昭和・内堀・芝沢・高田区にあたる地域を縦断していました。信越線が明治21(1888)年8月に開通して、篠ノ井駅ができる中央地区は篠ノ井の中心地域となりました。現在、駅前通りでは毎年7月下旬に篠ノ井合戦まつり・祇園祭、11月初旬には篠ノ井まつり恵比寿講等が行われ、毎月1回(5月～11月)、軽トラ市が開催され大変な賑わいを見せています。



① 耕心庵(曹洞宗)

永禄4(1561)年川中島の戦いの後、武田信玄は戦乱で荒廃した村里を見て心を痛み、激戦で犠牲になった数多くの兵士の菩提とこれ以上杉軍が出兵しないことを願って、禅宗「法性院甲信庵」を建立させました。後に耕心庵に改名しました。



② 豊川稲荷分霊所

明治44(1911)年10月、耕心庵16世祥嚴宣風住職が稲荷社を豊川稲荷から勧請、耕心庵境内に建てました。稲荷は本来農耕の神様とされてきましたが、近年は商売繁盛・家内安全などご利益を生み出す鎮守様として、近隣の人々の信仰を集めています。



③ 海道北山古墳(三本松塚古墳)

横穴式石室の側壁のみが残され、墳丘はありません。側壁は厚い平石を立てて並べ、玄室と羨道の仕切りがない特異な石室構造の古墳です。近くには6世紀前半に築造されたと考えられる3基の円墳の集合墳、布施塚古墳(大平塚古墳)があります。

注意:文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL 026-292-0038

協力団体:篠ノ井地区住民自治協議会・地域振興部会/長野商工会議所篠ノ井支部

高沢産業株式会社 株式会社つどろ



④ 万治の石祠 伊勢社

慶長年間(1596～1615)に川中島平の河川が整備されました。瀬原田は上堰から取水して開田し、五穀豊穡を願い万治2(1659)年に豊受大神を勧請しました。この石祠の脇には、「[いのみ公園]」命名の元となったご神木のイノミ(榎)の大木がありましたが、朽ちたため平成30(2018)年に伐採されました。



⑤ 壱影神社(瀬原神社)

村社瀬原神社は明治41(1908)年に布制神社に統合され、その後は壱影神社となりました。瀬原田発展の拠点で、周囲には瀬原田遊園地(薬師堂・寺子屋・通明学校支校跡地)、薬師堂、愛宕山地蔵堂などがあり、ケイジ場に駐車し参拝できます。



⑥ 布制神社

今から1100年余前の平安時代からの式内社。祭神は布施氏の祖先に当たる大彦命。9区(柳沢・五明・瀬原田・宮前・西組・南条・高田・内堀・芝沢)の鎮守様、産土神様です。毎年、春と秋には例祭が行われ、仕掛け花火や露店が出て賑わいをみせます。



⑦ 五明の道標

昔の小市道と有旅道の四つ辻に道標があります。小市道は善光寺に向かう旅人が通行した善光寺古道であり、北国街道の裏街道とも呼ばれました。有旅道は西山地域と町を結ぶ主要生活道でした。道標には「北 善光寺」と刻まれています。



⑧ 長野県初の自動車学校跡地

大正15(1926)年12月1日、篠ノ井町大字布施五明にあった競馬場が瀬原田へ移転した跡地(現ながのコロニー)に、長野県内初の「長野自動車学校」が設立されました。以来、平成13(2001)年に閉校するまで、75年間にわたる輝かしい歴史を刻みました。



⑨ 子育て千手観音堂

堀で溺れた愛児を助けてもらった両親が、その時、恩人が持っていた観音様のご利益に感謝し、このお堂を建てました。

両親が労働奉仕をして得た浄財を建設資金にしたことが美談として語り継がれています。



⑩ 境観音堂

お堂は五明区と西組区の境にあり、両区の近隣住民が信徒会をつくり護持しています。堂内には石造り観音菩薩立像があり、台座には正徳4(1714)年の記録があります。例祭は毎年10月中旬に開催されています。



心願山教院欣浄寺

⑨欣浄寺 寺の創建は寛文2(1662)年本尊の阿彌陀如来など三尊は、松代藩松城(後の松代城)本丸から移したものと伝えられています。創建100年目の宝暦12(1762)年の篠ノ井の大火で焼失後再建されました。明治期には郡役所、村役場、税務署、警察署などが暫定的に置かれたこともあり、門前の大きな徳本名号塔は文化13(1816)年5月、念仏行者徳本上人がこの地方を巡遊し訪れて開眼供養したものです。



徳仏(左)・瓦塔
長野県立歴史館蔵

⑩徳仏・瓦塔出土 北陸新幹線の事前調査で、軒良根古神社東北の古堂地籍から、瓦塔の破片が出土しました。この瓦塔は9世紀ごろ建てられたと推測され、窓のついた空洞の塔で、阿彌陀如来、阿彌陀勢至観音菩薩の徳仏(レリーフ状に彫られた仏像)が祀られていたといわれています。辺り一面から河原の丸い礫が900個以上も出土したことから、中心に基壇を、周りに丸い礫を敷き詰め瓦塔を祀り、覆屋をかけてお堂としてお参りしていたと考えられます。



軒良根古神社

⑪軒良根古神社 祭神は大己貴神(大日主命)と建御名方命(大日命の子)です。江戸時代は唐館宮と呼ばれ、文化3(1806)年の藩政改革で閉じられています。明治11(1878)年天皇が北陸巡幸で通過した3か月前の6月に現在の神社名になりました。養蚕の盛んだったころはネズミ除けの神様のお札を求めて群馬や埼玉からも参詣者でにぎわったといわれています。明治41(1908)年篠井庄神社(菅田別尊)が合祀されました。「大ネズミと唐館」の伝説が残されています。



篠井庄神社跡碑

⑫篠井庄神社跡碑 創建は室町時代といわれ、更級郡三十二郷の惣社でした。大塔合戦や五次にもわたる川中島合戦など幾多の戦乱や災害を経て、寛永6(1629)年に修復していますが寛保2(1742)年頃の洪水により社殿も流失し、宝暦13(1763)年に拝殿を再建し、篠井庄神社更級神社となりました。安政3(1856)年に拝殿が再建され、篠井庄宮八幡宮となり、明治41(1908)年軒良根古神社へ合祀されました。碑川国道18号の工事のため、現在地へ移転しました。



矢代の渡し跡

⑬矢代の渡し跡 江戸時代、矢代宿から篠ノ井まで分宿の淵ま千曲川を渡り舟で渡りました。参勤交代に加賀藩の前田家は300人の行列で180回も通ったといわれています。渡し場は水ごとにより崩壊が変化し、時として上流や下流に移動していました。明治5(1872)年に舟12艘を連結し、その上にお板を敷き幅3m、長さ80mの舟橋を架けました。明治11(1878)年、天皇の北陸巡幸の際には、この橋を馬車から輿に移り登ったと軒良根古神社境内の碑に記されています。



善光寺道標

⑭善光寺道標 平成16(2004)年見六橋改良工事中河川川底の泥の中から掘り出された善光寺道の道しるべです。大きなもので高さ178cm、幅47cmで、善光寺の方角を指差しています。碑の前面には「せんく王道」とあり、側面には「嘉永二(1849)酉年九月吉辰」と刻まれています。この年は善光寺地震の2年後であり、見六橋の石橋が再び石橋に架け替えられた年です。改修工事を完了を待ち、平成20(2008)年12月建立工事が完成しました。



見六橋

⑮見六橋 岡田川に架かる見六橋は塩崎と御幣川を結ぶ土橋でしたが、天明5(1765)年に石橋に架け替えられました。石材は竜ノ入から、そりと地車です。大正12(1923)年、弘化4(1847)年の善光寺地震の後の嘉永2(1849)年に再び石橋に架け替えられ、長さ7.2m幅3mの立派な橋となりました。歴代の橋は善光寺参りの旅人をはじめ、加賀藩前田のお殿様の長い行列や徳川家康の御金持も300年間この橋を渡り、また明治天皇のお馬車も渡りました。そして昭和2(1927)年、コンクリートの橋になって自動車時代を迎えました。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

塩崎地区史跡・名所巡り

篠ノ井塩崎地区は縄文時代から現代まで継続して人が居住しています。特に弥生中期、九州から稲を持った弥生人が渡来し、この地で在在の弥生人と交わることで新弥生人が誕生し、塩崎に稲作文化が大きく開き、千曲川流域に拡大しました。それからの塩崎地域文化の歴史をご案内します。



塩崎遺跡群と出土品 (長野市埋蔵文化財センター蔵) 令和5(2023)年12月25日撮影



塩崎用水碑

①塩崎用水碑 塩崎村は灌漑用水確保に長年苦しめられました。明暦2(1656)年杭瀬下新田より用水堰が完成しました。その後、千曲川取水口が水害で止まったため、長谷・越の農民代表が用水開削を主張し、村中総出で堰工を行い、文政9(1826)年八幡村から浄光まで竣工をみました。天保2(1831)年松平領主は湯の崎に水神社を勧請しましたが、明治41(1908)年長谷神社に合祀、その地に用水記念神が大正7(1918)年に建設されました。



湯の崎の石山

②湯の崎の石山 篠山(907m)の南東にある尾根先は流紋岩で生成され、室町時代ころから鉄鉱泉が湧出してバブメ、湯の崎と称されました。天正年間、上杉景勝が築城した際、石垣やその土台石に篠山の岩石が大量に使用され、また稲荷山が造られたときも、この湯の崎石が使われました。昭和30年代まで間知石などに用いられました。現在その名残の岩石が、稲荷山と塩崎の村境で観察されます。令和元(2019)年18号バイパスのトンネル貫通。



越将軍塚古墳

③越将軍塚古墳 千曲市稲荷山(元町)より古道を上り、塩崎の境谷(標高40m、64m幅あり)にある直径33m、高さ6.7mの竪穴石室を持った古墳時代5世紀の円墳。昭和53(1978)年発掘調査の結果、石室規模は上縁で長さ6.2m、北側幅1.45m、高さ0.7~0.9mで、安山岩を用い、赤彩の痕跡はありません。床面に土師器が敷き詰められ、遺物は滑石製小玉、小鉄片、円筒埴輪、土師器の杯、甕などがあることが明らかになりました。川中島平が一望できます。



塩崎新城跡

④塩崎新城跡 城の山、通称赤沢城ともいわれ、北は塩崎越の会下の道路より登ります。応永10(1403)年室町幕府は代官細川藤忠を下向させましたが、地方の反守護、大文字一揆軍の村上清信、大井、伴野、井上などの兵がこの城に立て籠り抵抗しました。しかし、同年10月3日幕府勢力により落城しました。南東側の広い段曲輪は、後の時代に造り足したものです。北側の段曲輪は急で小さく、東側も西側も急斜面で登れません。

注意：文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL 026-292-0038

協力団体：篠ノ井地区住民自治協議会・地域振興部会/長野商工会議所篠ノ井支部 金峯山龍福院長谷寺/地則山和合院天用寺/白鳥山報恩院康楽寺



延喜の古道

⑤延喜の古道 奈良時代の動脈として造られた七道の一つ東山道のひとつです。新穂駅より会田、立峠、刈原沢、麻績、永井、古峠を経て、御座に下ります。小坂より越将軍塚古墳の横から越に下り、上手道から長谷観音下を通り鶴萩に至ります。さらに中郷神社下から聖川を渡り新原田、小松原を経て早川を渡り善光寺を経て越後の聖所に至る古道です。この道の特徴は、都から諸国の駅、駅家を経て、越後の国府まで最短距離を直線で結んでいたことです。



荒堰の土手説明板

⑥荒堰の土手 猪ノ平の流入沢が長い年月をかけて松節千曲川に押し出した大天井川です。越に分かれた濁沢は越と柿の木田を境とし、会下で分かれた本流は八幡宮地を覆い、東谷を作り松節まで埋めました。その幅は数10mに及び、桑原、稲荷山方面が大雨出水のときは自然堤防となりました。大正年間に稲荷山駅〜稲荷山町間に新東道が開通し、荒堰の土手敷改良工事が実施され、高さも幅も現在の姿となりました。



猪ノ平

⑦猪ノ平 篠山(907m)は、稲荷山、信更との境界山です。稲花凝灰岩地帯に約2万年前ころに噴出した火山岩でできた芝山で、草刈場として利用されました。その後植林され、山林経営の基となりました。東麓は小平地が形成され猪ノ平と呼ばれました。縄文期より人が住み、弥生期の住居址や古墳がみられ、水田が造られました。延宝8(1680)年溜池が造成され、下流長谷越地城の水田灌漑に利用されています。



康楽寺開基後庵

⑧康楽寺開基後庵(覚明西仏坊終焉之地) 康楽寺の開基西仏坊は現東御市海野庄生まれ。長じて奈良興福寺、さらに比叡山で観賢とともに法然上人の弟子となりました。親鸞が法難に遭い、流罪放免の後、越後から東国の布教に同行しました。生国海野の道すから、師法然上人の訃報に接し、そこに報恩院を建て、当地長谷の地に来て念仏教を広めました。没後この地に葬られ、後庵と称されました。長谷の荒井氏が管理しています。



長谷学校跡地

⑨長谷学校跡地 長谷・越地区は長谷寺末寺の長勝寺を譲り受け、明治6(1873)年より19年まで長谷学校を設置。同10年には193名から422円の寄付を募り、各戸の労力奉仕と共有林木材を使用して、間口6間、奥行3間の二階建て瓦葺き校舎を建築しました。同19年、塩崎・長谷・興譲3校統合による閉校後、両区共有の集会所長谷倶楽部を開設、青少年の夜学を開設。昭和24(1949)年長谷・越地区の公民館として活用されました。



塩崎城跡

⑩塩崎城跡 塩崎城は長谷観音堂より徒歩約30分ある山城です。応永7(1390)年の大塔合戦で信濃守護小笠原長房率200人近く千人衆との合戦に敗れ、20日近く籠城しましたが、落城前、大井氏の調停により長房は京の都へ逃げ帰りました。頂上の本郭を中心に二の郭、三の郭、四の郭を構え、その下には十段の曲輪、四の郭後方には長大な堀溝、本郭左右には石壁が連なり、北に鶴萩沢、南に額谷沢の天然の備えがありました。別名白助城・五万長者城ともいいます。



長谷神社上社

⑪長谷神社上社 長谷神社上社の祭神は、古くより「まっしょうさん・八上人権理」と伝承されています。御神体は塩崎城跡のある上の山頂で、三輪神社と同じ山体を敬神しています。拝殿は下って、長谷観音堂の南西に東向きで、三方破風の菅屋根、表口は三仕切で、御幣8本が立てられています。「延喜式神名帳」には、信濃の国48社、更級郡内11座の中に長谷神社があることから、この長谷神社を指すと継承されています。

支所発地域力向上支援金 事業評価(篠ノ井支所)

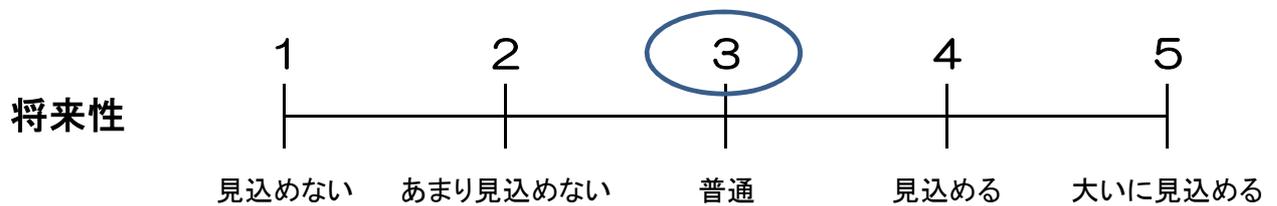
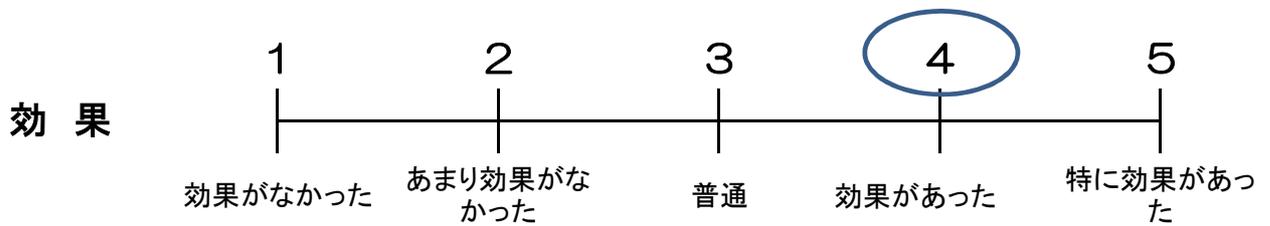
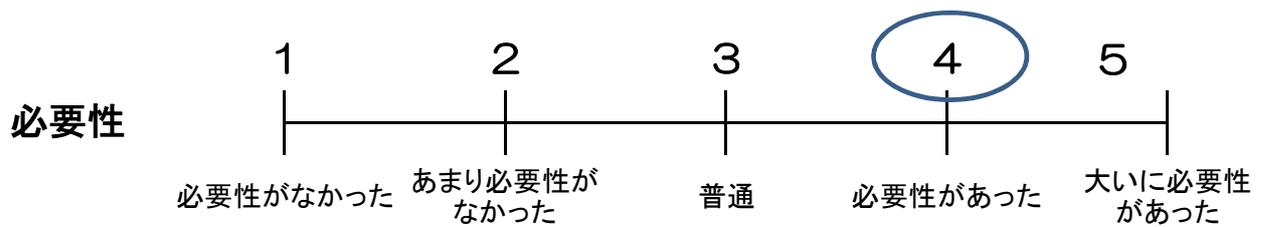
令和6年1月31日

事業名	篠ノ井史跡名所巡りパンフレットの増刷事業
-----	----------------------

団体名	篠ノ井歴史の会
-----	---------

評価項目 (選考基準の視点で評価)

事業区分	教育文化活動
------	--------



支所長の総合評価 (次年度以降の活動への助言等)
このパンフレットは、篠ノ井の史跡、名所を紹介するうえで、わかりやすい解説に写真が添えられ、サイズも使いやすい。今後、計画されている小中学生を対象とした現地案内でも活用されることにより、身近な歴史から郷土愛の醸成を育むことにつながる。
このパンフレットを手にした市民が、篠ノ井地区の史跡、名所を巡りながら、過去に存在した時代を感じ、地域文化に興味を持ち、文化財の継承、保護につながる意識が高まることを期待する。